

## 配偶者出産休暇、年次有給休暇積立制度



### 学校法人東北薬科大学

法人事務部 企画課長  
兼図書館事務課長

菅原 健士さん(中央)

総務課長

佐々木 正洋さん(右)

教務課 係長

浅野 一さん(左)

#### 大学プロフィール

●生命薬科学科、薬学科

●教職員数：157名(2012年5月1日現在)

●URL：<http://www.tohoku-pharm.ac.jp>

## 豊かなコミュニケーションで 休みやすい職場環境を作る

**実践！** こうすればできる！  
こうすればのびる！

- ① 次世代育成支援の理解を深める
- ② 職場内コミュニケーションの活性化
- ③ 職員のニーズに合わせる

### 配偶者出産休暇

この休暇は、妻の出産に関わる入退院の付き添いや、出産時の付き添い、入院中の世話や、出生の届け出等のために取得できるもので、特別休暇として3日が付与されます。取得者は多く、配偶者が出産する場合、男性職員はほぼ全員が利用しています。我が子の出生にきちんと関わることで、その後の育児に対する参加意識も養われると思いますので、男性職員は次のステップである、育児休暇にも関心を寄せるきっかけになるのではと期待しています。仕事と家庭生活を両立させ、家族と過ごす時間を大切にワーク・ライフ・バランスの観点から見ても、また次世代育成支援の立場から見ても、この配偶者出産休暇を取得することは重要な意義を持つと考えます。

職場全体で160名弱と人数が少ないせいもあり、お互いの顔が見えて日常的にいろいろな会話を交わしているから、職員の生活状況等も自然と理解するようになり

ます。日頃から豊かなコミュニケーションを重ねることが、風通しが良く、休暇を取得しやすい職場環境作りにつながっていると思います。

2010年には「次世代育成支援対策推進法」に基づき、次世代を担う子どもたちの育成支援のための行動計画を定めました。行動計画の実施期間は2011年4月から2016年3月までの5年間としています。その中の一つとして「休暇の取得を促進する」という項目をあげており、授業参観日、入学・卒業式等子どもの学校行事への参加や、誕生日等の家族の記念日における休暇の計画的取得の促進を明記しています。行動計画の内容については制定当初に文書を配布して説明をしたことで、職場内で周知され理解は進んでいます。もともと休暇の取得がしやすい環境ということもあり、特に若い世代の取得率は高くなっています。

### 年次有給休暇積立制度

年次有給休暇積立制度は、失効した年次有給休暇50日を上限として積み立てることができ、私傷病、家族の介護等の折に利用できるというものです。これらの事由で連続8日以上休暇を必要とし、かつ大学が認めた場合、過去5年間に於いて失効した年次有給休暇が特別休暇として付与されます。私傷病で休みを取る場合には、どの休暇をどのように利用するか、人員の補充も含めて総務課に相談があります。年次有給休暇を使い切っし

まうと復帰してからが不安になってしまうので、こういう制度を使った方がいいのではというアドバイスを私たちからしています。

また、積立有給休暇の取得事由として、自己の能力、教養を高めるための研修という項目も加えています。これは語学研修や大学院進学等を想定して作られたものです。こうした項目が加えられているのは、大学らしい制度といえるかもしれません。



法人事務部 財務課  
古郡 英一さん  
(配偶者出産休暇)

7歳と5歳の子どもがいますが、それぞれ二人が産まれた時に「配偶者出産休暇」を取得しました。いずれも産まれた日から3日間の休みを取りました。上の子のときはただ病院に行くだけでしたが、二人目のときは休みの活用法もわかり、役所に行って手続きを済ませるなど効率的に過ごすことができました。子どもが産まれてからの手続きは結構あるもので、名前を届けるのもそうですし、保険や児童手当の申請など、平日でないとなさけないことが多々あります。こうした手続きの面からも3日間の休みがあると安心です。二人目の出産のときは、上の子の面倒を見る必要もあったので、妻も休みを取ってくれて助かったと言ってくれました。

他の職場の知人の話を聞いていると、休暇の制度があっても休むことを言い出しにくい雰囲気になっている場合があるようですが、今の職場はそういう心配が一切なく、気兼ねなく休めるのは恵まれていると思います。最初にこの休暇の存在を知ったのも、職場の先輩からこういう休暇制度があると教えてもらったからでした。

配偶者出産休暇のほか、これまで子どもの看病で休んだことが1~2回あります。妻は横浜出身で、私は山形出身のため、現在住んでいる仙台には親類縁者がいません。ちょっと子どもを実家に預けるといえることができないので、何かあったときには私が子どもの面倒を見ることになり、休みをもらうことになってしまいます。職場のコミュニケーションが良く、休暇をとりやすい雰囲気が醸成されていることは、仕事と生活のバランスを保つことができ、何よりありがたいことです。

VOICE